

(西暦) 2018 年度 博士前期課程学位論文要旨

学位論文題名

HIV/AIDS 患者の他者への病名告白に関する支援
－受診初期における外来専従看護師の実践－

学位の種類： 修士 (看護学)

首都大学東京大学院

人間健康科学研究科 博士前期課程 人間健康科学専攻 看護科学域

学修番号 16894602

氏名：友杉 真理子

(指導教員名： 島田 恵 准教授)

【背景と目的】 HIV/AIDS 患者の療養を支援するために、受診初期において病名を知った支援者の存在が重要であるが、患者は他者への病名告白に関する様々な困難を経験していることが報告されている。また、他者への病名告白に関する支援は看護師が個々の経験に基づき手探りでを行っているのが現状である。そこで本研究は、受診初期に HIV/AIDS 外来専従看護師 (以下、専従看護師) が行っている他者への病名告白に関する支援と考えを明らかにすることを目的とした。

【方法】都内エイズ診療拠点 X 病院の専従看護師 1 名に対し半構成的インタビューを行い、初診時、再診時に対象症例に対して行った他者への病名告白に関する支援と考えを質的記述的に分析した。

【結果】対象症例は 11 例で、専従看護師の他者への病名告白に関する 59 の支援と考えが見出された。これらは、初診時他者に病名告白していた「告白済み群」5 例への支援と、告白していなかった「未告白群」6 例への支援に分けられ、後者はさらに今後告白する意思があるか否かで分けられた。また、支援の時期を初診時と再診時に分け、初診時はさらに「受診前」「問診前」「問診時」「診察後」の 4 つのタイミングに整理することができた。さらに、初診時の他者への病名告白の有無に影響を受けない共通の支援が抽出された。

【考察】専従看護師による他者への病名告白に関する支援は、患者に会う前から始まっており、情報を積み重ねて描かれていく患者像や、受診の度に変化する患者の状況に専従看護師が合わせて支援していた。また、患者に何ができるか常に画策し、専従看護師がチームメンバーを切り盛りしながら患者とチームを作っていた。そして、専従看護師は、患者から学ぼうとする姿勢で患者に関わり、患者が今まで通りの自分を演じる大変さを理解し汲み取る度量をもっていた。このような専従看護師の考えが、この支援の基盤となっていると考えられた。

【結論】受診初期における他者への病名告白に関する支援は、病名告白の有無にかかわらず、患者の状況に合わせて支援が必要である。また、患者に何ができるかを常に画策し、チームメンバーを切り盛りしながら患者を主体とする姿勢を示し、患者が今まで通りの自分を演じる大変さを理解し汲み取る度量をもつ必要性が示唆された。このような専従看護師の姿勢は、他者への病名告白に関する考えの根幹となり、患者にとって本当の支援者を見つけ出そうとする支援の質を支えるものと考えられる。

要旨

受診初期に HIV/AIDS 外来専従看護師（以下、専従看護師）が行っている他者への病名告白に関する支援を明らかにすることを目的に、都内エイズ診療拠点病院の専従看護師 1 名を対象に 11 症例への実践と考えについて半構成的面接を実施した。その結果、他者への病名告白に関する 59 の支援と考えが見出された。支援は初診時の病名告白の有無にかかわらず実践され、患者に会う前から始まっており、情報を積み重ねて描かれていく患者像や、受診の度に変化する患者の状況に合わせて支援していた。また、患者に何ができるかを常に画策し、チームメンバーを切り盛りしながら患者とチームを作ろうとしていた。さらに、患者から学ぼうとする姿勢で関わり、患者が今まで通りの自分を演じる大変さを理解し汲み取る度量をもっていた。他者への病名告白に関するこのような考えは、患者の本当の支援者を見つけ出そうとする支援の根幹であると考えられる。

キーワード：病名告白、HIV/AIDS、専従看護師、外来看護、支援

Abstract

The purpose of this study was to clarify the support provided by outpatient nurses engaged only in HIV/AIDS care to HIV/AIDS patients in disclosing their disease status to others. A semi-structured interview was conducted with one nurse engaged only in HIV/AIDS care at an AIDS Core Hospital in Tokyo regarding her practices with, and perspectives on, 11 cases. The interview results identified her 59 practices and perspectives on patient disease disclosure to others. Regardless of the patients' disease disclosure or nondisclosure status at the time of their first outpatient visit, the nurse provided support, beginning even before she met her patients. She provided the support in accordance with the patient images she built up as she accumulated information, or as the patients' situations varied, at each outpatient visit.

Additionally, the nurse was always working out what she could do for the patients, and she tried to side with them while dealing with team members. Furthermore, in her involvement with the patients the nurse had a willingness to learn from them. She had a broad mind, and she understood and accepted the patients' difficulties in behaving as the same people they used to be. The nurse's perspective on disease disclosure, mentioned above, is the foundation of the type of support that characterizes a true supporter of patients.

Keywords: disease disclosure, HIV/AIDS, nurse engaged only in HIV/AIDS care, outpatient nursing, support